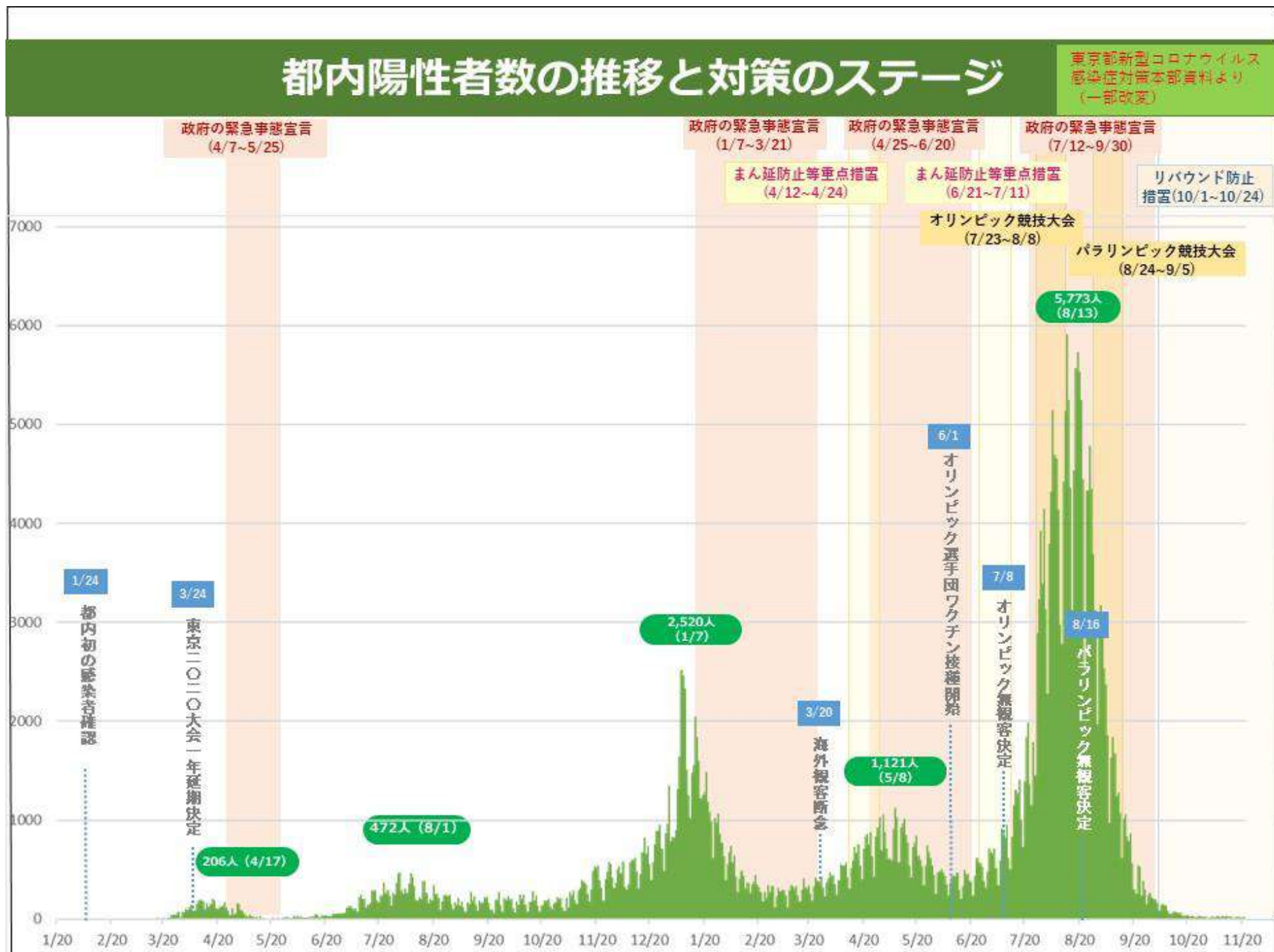


# 東京2020大会における 新型コロナウイルス感染症対策



東京都福祉保健局  
Bureau of Social Welfare and Public Health  
Tokyo Metropolitan Government



## 感染症対策における基本的な対応 (2019年4月時点)

取組	概要	備考	
サーベイランス	感染症発生状況の把握	感染症発生に関する情報を医療機関等から常時系統的に収集して、発生の有無、状況等を監視するとともに、情報を解析し、還元する	(例) ・感染症発生動向調査 (患者・病原体サーベイランス) ・救急搬送サーベイランス等
病原体検査	対策に必要な病原体等検査	行政による対策実施に必要な、医療機関では困難な疾患の特定や病原体の確認等の検査を行う	(例) ・疫学調査において実施する疾患特定のための検査等
疫学調査	原因究明や二次感染防止のための調査等	感染症患者発生時に、保健所が、対策に必要な情報 (原因の推定、接触者の有無等) を患者等から得るための調査を行う	・患者やその接触者等に対する療養や二次感染防止のための「保健指導」を含む。
医療提供	感染症医療の提供	感染症患者に対して、重症化防止・早期回復や感染拡大防止を図るために、適切な医療提供を行う	(例) ・感染症指定医療機関等における医療提供 ・一般医療機関への診断に必要な情報の提供等・
その他	予防やまん延防止のための各種取り組み	感染症の予防やまん延防止のための上記以外の取組	(例) ・都民等への普及啓発、情報発信、相談対応等

## コロナ検討における経緯

年月日	項目	内容
2020年9月4日	東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議	第1回を開催 その後、以下日程で計7回開催 9/4, 9/23, 10/9, 10/27, 11/12, 12/2, 2021/4/28
12月2日	コロナ対策調整会議	中間整理
2021年2月3日	プレイブック第1版の公表	
3月20日	五者協議	海外観客の日本への受入れ断念
4月28日	プレイブック第2版の公表	
4月30日	東京2020大会における新型コロナウイルス感染症対策のための専門家ラウンドテーブル	第1回を開催 その後、以下日程で計5回開催 4/30, 5/28, 6/11, 6/18, 8/20
6月15日	プレイブック第3版の公表	
6月21日	五者協議 Stakeholders meeting (IOC, IPC, Organising Committee, GoJ, TMG)	観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」とすること、7月12日以降緊急事態宣言等が発動された場合は措置内容を踏まえた対応を基本とすること等を合意
7月8日	五者協議	オリンピック無観客の決定
8月16日	四者協議	パラリンピック無観客の決定 (学校連携観戦を除く)

第1回 コロナ対策調整会議



第1回 専門家ラウンドテーブル



プレイブック第二版公表



# 東京2020大会における新型コロナ対策

東京都新型コロナウイルス感染症対策本部資料より

- コロナ禍において安全・安心な大会とするため、水際対策の徹底や入国後の定期的な検査、厳格な行動管理等の対策を実施
- 訪日アスリート、大会関係者の陽性率が低く抑えられるなど、安全・安心な大会を実現

## 選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備

海外からの入国者数の縮小	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大会運営の簡素化とともに来日大会関係者数を延期前の計画からオリンピック時は4分の1、パラリンピック時は3分の1に縮小</li> </ul>
水際対策・検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入国前に2回検査</li> <li>● 選手は原則毎日検査、関係者は役割に応じ定期的に検査</li> </ul>
行動管理・健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 厳格な用務先の制限、行動管理、健康管理</li> </ul>
基本的な感染対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マスクや物理的距離の確保、三密の回避といった基本的コロナ対策の徹底などにより、選手村や競技会場における感染拡大の防止</li> </ul>
<b>日本在住者との接触を最小限とし、国民の安全・安心を確保</b>	
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共交通機関の原則不使用。移動は原則として大会専用車両</li> </ul>
宿泊	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己手配宿泊施設の「宿泊ガイドライン」への適合</li> <li>● 満たせない場合は、組織委員会手配ホテルへ変更</li> </ul>



## 感染症対策センター 保健衛生支援東京拠点 発熱外来

### ○計画



#### (1)感染症対策センター (IDCC)

- 稼働期間 7月1日～9月20日
- 体制 オリパラ期間中：シフト制により24時間稼働  
それ以外：7～23時稼働  
日中：18名程度、夜間12名程度

#### (2)保健衛生支援東京拠点

- 稼働期間 7月1日～9月20日
- 体制 医師1名、保健師3名、事務8名  
トレーサー6～15名(時期による)

#### (3)発熱外来

- 稼働期間 7月7日～9月8日(オンコール期間含む)
- 体制 シフト制により24時間稼働  
日中：医師2名、看護師6名  
夜間：医師1名、看護師2名

### ○総括

- 3つの機能(感染症対策センター、保健衛生支援東京拠点、発熱外来)が有機的に連携することで、円滑な検査の実施と陽性者の早期特定、速やかな事態対応を実現
- 発熱外来では、感染エリアと非感染エリアのゾーニングを徹底し院内感染の防止を図るとともに、施設内で検体分析を行うことにより、検体採取から2～3時間での結果判明を実現
- IDCCでは、同室内で関係機関(IDCC、東京都、厚労省)が業務を行うことによりコミュニケーションが円滑化され、情報共有や意思決定のスピード向上に寄与

## プレイブック

- IOC、IPCとともに、専門家の意見を踏まえ、東京2020大会において参加者が遵守すべきコロナ対策上のルールを取りまとめたプレイブックを関係者毎に作成、公表。
  - 第一版：2021年2月公表（2/3～3/16）  
2020年12月の新型コロナウイルス感染症対策調整会議の中間整理を基に、WHOや第三者の専門家・機関からの助言、世界の国際的なスポーツイベントからの学びを参考に、行程ごとに行うべき基本原則や、枠組みを記載。
  - 第二版：4月公表（4/28～5/10）  
第一版をより詳細化。特に、選手・関係者の検査頻度（原則毎日検査等）やCLOの役割等の詳細を記載。
  - 第三版：6月公表（6/15～6/22）  
行動管理ルールを強化、検査頻度・プロセスを具体化、ルール違反に対する制裁措置を明確化。また、出国前に必要な陰性証明の要件等、プレイブック第二版以降の課題に対応。
- 各関係者とのコミュニケーション  
各組織と個別のコミュニケーションのほか、プレイブック更新の都度、各関係者に対し説明会を開催し、必要情報を共有、説明。大会の安全安心・ルールの遵守に向けた理解を形成した。



東京2020第47回夏季大会41 決勝事項  
<https://www.tokyo2020.jp/news/news-20210528-01-ja/index.html>

## 検査頻度

場所	レベル	特徴	対象	検査頻度
東京	1A	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手村に滞在するアスリート</li> <li>選手村内の他の居住者 (大会運営における重要な役割やアスリートと密接に関わるため)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手村の居住者</li> <li>アスリート</li> <li>チーム役員</li> <li>他のNOC/NPCアクレディテーション保有者</li> </ul>	毎日
東京	1B	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手村に滞在していないアスリートやチーム役員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手村に滞在しないが東京に居住するアスリート</li> <li>選手村には滞在しないが東京に居住するチーム役員</li> <li>他のNOC/NPCアクレディテーション保有者</li> </ul>	毎日
地方	1C	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京に滞在していないアスリート及びチーム役員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方会場に滞在する者</li> <li>アスリート</li> <li>チーム役員</li> <li>他のNOC/NPCアクレディテーション保有者</li> </ul>	毎日
ALL	1D	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にアスリートと接触または密接に関わる参加者</li> <li>大会運営に必要なコア参加者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IF代表、国際テクニカルオフィシャル、審判、ジュリーメンバー、国内テクニカルオフィシャル、エキップメント技術者、IF理事、IF理事長及び事務総長、IFフルタイムシニアスタッフ、IFスタッフ、IFメディカルオフィサー、トランスファラブルゲスト、メディア責任者</li> <li>FOPブロードキャスターやフォトグラファー</li> </ul>	毎日
ALL	1E	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にアスリートと接触または密接に関わる参加者</li> <li>大会運営に必要なコア参加者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツボランティアの一部</li> <li>一部のFOPおよびOLVサポート・サービススタッフ(例：タイムキーパー、リザルトマネージャー、隔離・検査施設等のメディカルスタッフ)</li> </ul>	毎日
ALL	2A	<ul style="list-style-type: none"> <li>レベル1の参加者と接触する可能性のある参加者 (特に、アスリートとの接触がある参加者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他ブロードキャスト・プレス</li> <li>オリンピック・パラリンピックファミリー</li> <li>マーケティングパートナー</li> </ul>	4日ごと
ALL	2B	<ul style="list-style-type: none"> <li>レベル1の参加者と接触する可能性のある参加者 (特に、アスリートとの接触がある参加者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他のスポーツボランティア</li> <li>その他のサポートサービススタッフ</li> </ul>	4日ごと
ALL	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>レベル1の参加者との接触が限定的または接触がない参加者</li> <li>海外からのステークホルダーと接触の可能性のある者</li> </ul>		7日ごと
ALL	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他の大会参加者</li> </ul>		検査なし

プレイブック 第3版  
<https://www.paralympic.org/tokyo-2020/playbooks>

## 濃厚接触者対応

濃厚接触となったアスリート等の練習や競技に参加するための具体的な条件について、国、東京都、組織委員会、IOC/IPC等の中で協議し、以下のとおり定め、運用した。

### 練習や競技参加等に必要な主な対策

- ✓ 毎日鼻咽頭PCR検査（原則）を行い陰性である
- ✓ 個室で滞在・宿泊する
- ✓ 食事は自室で一人とする
- ✓ 移動は個別車両での移動とする（専用輸送車両、航空会社の協力）
- ✓ 濃厚接触者は練習や試合を除き外出を禁止する  
練習会場、試合会場における他者との物理的な距離を確保する  
→組織委員会職員の同行による監督を実施

東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/news/news-20210528-01-jp/index.html>

## 海外から来日したオリンピック関係者数：オリンピック大会時

### オリンピック



簡素化や海外観客の受入れ断念、  
その後の大会関係者縮減要請

### パラリンピック



※アスリート・一般観客を除く  
※推計値

東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/news/news-20210528-01-jp/index.html>

## 大会中に生じた課題と対応

スクリーニング検査 キットの 不足・過剰配布	<p>キットのメール発注の仕組み開発 検査センター運営時間延長 オーナーFAによるキットの配布回収 各会場回収場所の早期開設および新設</p>
障害をもつ アスリート等の移送	<p>MED搬送車が車椅子非対応のため、看護師が同乗 陽性者の障がいの程度や介助の必要性の評価 福祉車両を有し陽性者搬送可能な交通事業者を確保</p>
想定以上の介助を要 する陽性者が 療養施設に入所	<p>IDCC内の看護師を療養施設へ再配置 設備の追加手配 現場スタッフの工夫による環境改善</p>

東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210528-01-jp/index.html>

## 選手村概要

- 選手村（本村）は中央区晴海地区に位置し、敷地面積は約44ha
- 居住棟21棟のほかメインダイニングホール、複合施設、ビレッジプラザ等を整備し、大会期間中、選手等が安全、安心、快適に生活できる環境を提供

主要施設	概要
居住棟	14～18階建ての恒久施設21棟で、オリンピック時18,000ベッド、パラリンピック時8,000ベッドを提供
メインダイニング ホール	2階建ての仮施設で、24時間食事を提供
複合施設	3階建ての恒久施設で、総合診療所（オリンピック時9診療科・パラリンピック時10診療科）、カジュアルダイニング、レクリエーションセンター、フィットネスセンター等でサービスを提供
ビレッジプラザ	全国の自治体から借り受けた木材を建物の様々な箇所に使い、銀行や雑貨店、ヘアサロン、日本文化コーナー、オフィシャルショップ等の選手の生活を支えるさまざまなサービスを提供

東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210528-01-jp/index.html>

## 選手村全景



東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-jp/index.html>

## 選手村における飲食提供

### メインダイニングホール

- メニュー数：約700種類
- 提供食：約87万食
- 座席数：オリンピック3,000席／パラリンピック2,400席
- 今大会よりグルテンフリーのコーナーを設けるなど多様なニーズに対応

### クラブ&ゴー

- 箇所数：4カ所
- メニュー数：19種類
- 提供食数：約5万食

### カジュアルダイニング

- メニュー数：約200種類
- 提供食数：約6万食
- 座席数：オリンピック280席／パラリンピック250席
- 食材の産地：47都道府県の食材をローテーションにて提供
- 東北被災3県及び開催地東京都は毎日提供

東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-jp/index.html>

## 選手村運営に当たってのコロナ対策(感染防止策)

**検温の実施** 入村時に非接触型体温計を使用して検温を実施

### 飛沫感染防止策

- 村内各施設内においてこまめな換気を行うとともに、メインダイニングホールやフィットネスジム等にはアクリル板を設置
- 足元サインの設置等によりフィジカル・ディスタンスを確保
- 選手へのインタビュー取材をビレッジプラザ内に設置したミックスゾーンに限定

### 接触感染防止策

- 手指消毒液を各所に設置
- アルコール消毒液等コロナ対策キットを選手団に配布

### 混雑緩和策

- メインダイニングホール等の混雑状況が分かるサイネージを設置

東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-ja/index.html>

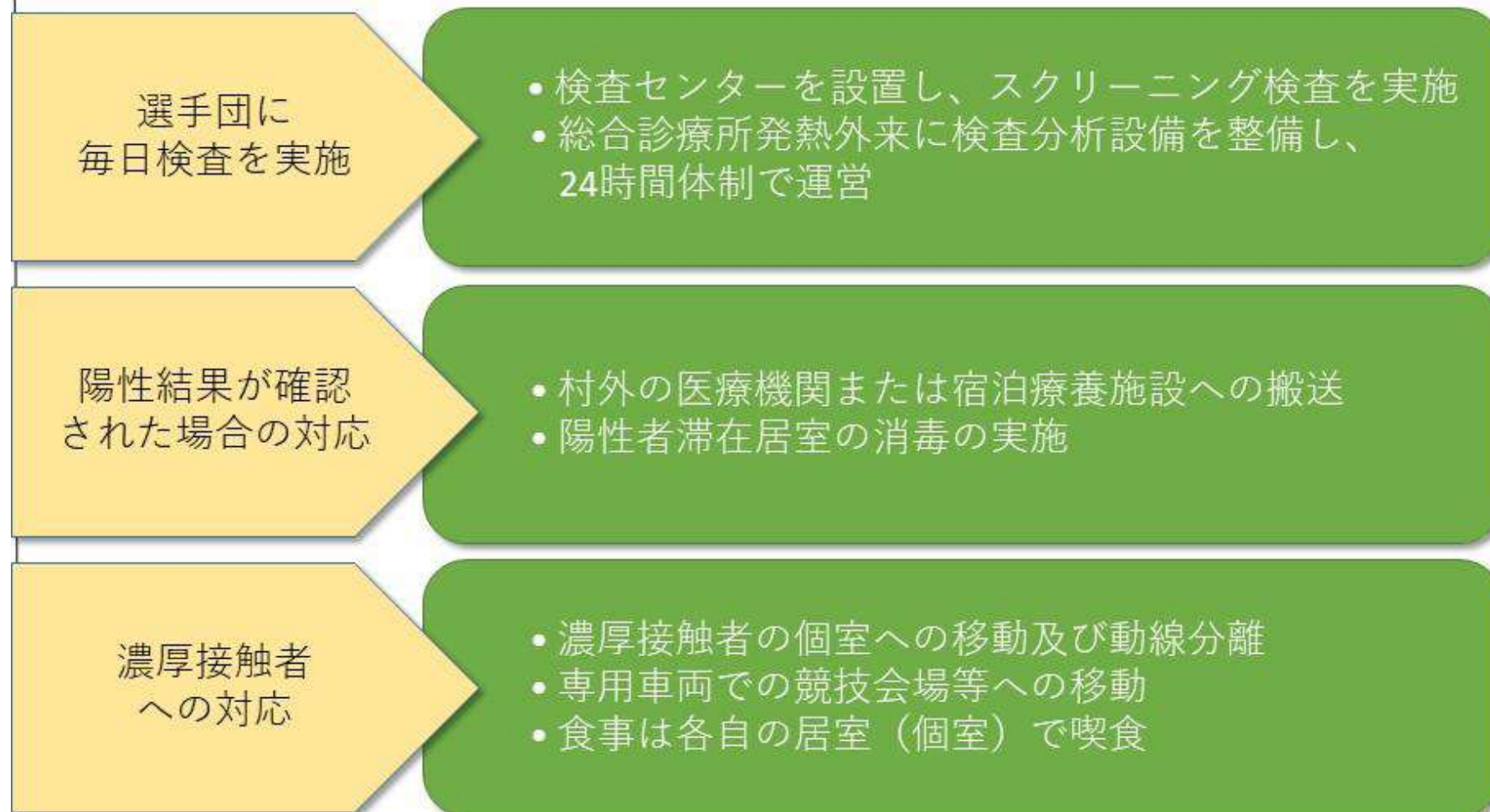
## 選手村運営に当たってのコロナ対策(感染防止策)



東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-ja/index.html>



## 選手村運営に当たってのコロナ対策(検査・陽性者対応等)



東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-jp/index.html>

## プレイブック等違反の事例

IOC/IPC と協議の上、迅速に処分決定

	嚴重注意	アクレディ一時停止	アクレディ剥奪
オリンピック	32名	9名	15名
パラリンピック	29名	1名	3名

- ☑ 嚴重注意
  - 大会関係者 大会関係者 選手等
  - 入国後14日間の隔離期間における、軽微な外出違反
  - ホテル内での集団飲食/飲酒
  - 観客席でのマスク未着用、選手村内での騒動等
- ☑ アクレディの一時停止
  - 大会関係者
  - ホテル内での集団飲食/飲酒(複数回注意)等
- ☑ アクレディの剥奪
  - 選手等 大会関係者 選手等
  - 観光目的等の外出違反
  - FOPへの無断侵入
  - 暴行事件、大麻所持等による刑法犯罪

東京2020第42回保健会資料 決版事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-jp/index.html>

## 出入国

### Tokyo 2020 ICON (※) を活用した入国関係事務

※Tokyo 2020 ICON：東京2020感染症対策業務支援システム (Tokyo 2020 Infection Control Support System)



※ OCHA：統合型入国者健康情報等管理システム (Online Check-in and Health report App)

- 新型コロナウイルス感染症を踏まえた我が国の水際対策上、入国後14日間の宿泊場所・用務先等を記載した「本邦活動計画書」に政府に提出し、これが承認された者についてのみ、一定の隔離期間（14日間、3日間及び0日間の待機）の下に特別に入国が認められた。
- 具体的には、各ステークホルダー（SH）のコロナ対策責任者（CLO）が、担当する入国者分の本邦活動計画書を組織委員会担当FAへ提出し、組織委員会及び政府で審査を行い、入国の必要性等が認められた者が大会関係者として入国した。
- 入国制度の周知徹底やシステム（ICON/OCHA）の使い方の面で若干混乱もあり、組織委員会のサポートを得て初めて入国が可能となる案件もあったが、大会期間中に約1万4千通の本邦活動計画書が承認され、大会に真に必要な海外SHは全て無事に入国することができた。

東京2020第4回保健委員会 決議事項  
<https://www.tokyo2020.jp/news/news-20210228-01-jp/index.html>

## 空港対応の概要

- 入国にあたっては、入国審査、税関検査の前に、新型コロナウイルスの検査を受検
- 検査前には、本邦活動計画書の政府承認、出国前の陰性証明等を確認
- オリ・パラ関係者を他の入国者と交わらせない、いわゆるバブル形成の対応のため、動線の分離やリエゾンによる誘導を実施

### オリンピック アスリート等選手団の入国



東京2020第4回保健委員会 決議事項  
<https://www.tokyo2020.jp/news/news-20210228-01-jp/index.html>

## 課題と対応（オリ入国時の滞留・混雑）

- ・ オリ関係者の入国の際、様々な要因により空港で長時間の滞留、混雑が発生
- ・ 入国手続きの円滑化に向け、政府及び空港会社等と連携・調整し、より適切なオペレーションを構築できるよう、継続的に努力

選手団を速やかに入国させるオペレーションの確立

→選手団専用の待機場所を別途確保（到着ロビーを出た後）

検疫一次受付における長時間待ちの発生

（同時間帯に複数の便が到着し関係者の入国が集中等）  
→検疫能力を増強（新しい検疫エリアをオープン）  
→受付カウンターの増開設

OCHA入国者の割合が低い

（OCHAを事前準備していない、使用できない等）  
→ステークホルダーオーナーFAから事前準備を周知  
→書類による入国手続きを可能とし、長時間の滞留を回避

入国オペレーションの複雑化に伴う対応人員の不足

→空港リエゾン等の増員  
→内閣官房、国土交通省、東京都職員による応援

東京2020第42回保健会資料 検疫事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210528-01-ja/index.html>

## 出国前検査・陰性証明書発行業務について

### 【背景】

- ・ 大会関係者の出国には、出国前に行った検査の陰性証明書が必要  
（必要な検査方法や提出方法（データもしくは証憑）は国によって異なる）  
→ 検査の体制、陰性証明書発行のスキーム構築が課題

ICON利用者にスクリーニング検査の最新結果に基づき陰性証明書をデータ提供

選手村に検査施設を設置し陰性証明書をデータ提供

市中民間検査機関の推奨により個人責任で受検し、陰性証明書を取得

東京2020第42回保健会資料 検疫事項  
<https://www.tokyo2020.jp/ja/news/news-20210528-01-ja/index.html>

## 出国前検査・陰性証明書発行業務について

### 対応体制

- ・検査の受検方法、陰性証明書発行方法、ユーザーズガイドを、各SH向けに発信
- ・MOC内に専門チーム（MOC-NRCチーム）を立ち上げ
  - <構成> MOC内ICONサポート担当+各局の応援職員
  - <業務内容> 陰性証明書発行に関する問合せ対応  
陰性証明書の代理発行業務、等

### 出国前検査の陰性証明書発行件数

	ICONからの発行		選手村	MPC	合計
	ユーザー自身で発行	専門チームによる支援			
オリンピック (8月11日まで)	37,587	1,060	6,742	379	45,768
パラリンピック (8月12日以降)	15,906	529	3,938	-	20,373
合計	53,493	1,589	10,680	379	66,141

#### 陰性証明書の発行期間

- ・ユーザー自身による発行：オリンピック7/24～8/11、パラリンピック8/12～9/13
- ・専門チームによる支援：オリンピック7/26～8/11、パラリンピック8/12～9/12

東京2020第4回保健会資料 検疫事項  
<https://www.sskyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-ja/index.html>

## 検査件数 陽性者数

	スクリーニング 検査件数	一次検査 陽性件数	陽性確定者数
総数	1,014,170件	510件	304人

一次検査陽性件数には、同一人物が複数回陽性判定になった場合を含む

区分	検査件数	陽性確定者数
有症状による 発熱外来受診者数	47件	2人
濃厚接触者数	3,428件	12人
その他、必要な対象者(※)	14件	3人
総数	3,489件	17人

※帰国時検査で陽性になった際の確定検査や、ホストタウンから移動中に陽性疑いとなったため急ぎ実施した検査等

#### 【総括】

- アスリート等/大会関係者にスクリーニング検査を実施し、1日あたり平均約14,000件（最大36,225件）の検査を実施
- 陽性者の多くが無症候性病原体保有者であり、早期の陽性者隔離に寄与したため、有症者の検査は総定数より少なく、発症前に陽性者を探知できていた可能性がある

東京2020第4回保健会資料 検疫事項  
<https://www.sskyo2020.jp/ja/news/news-20210228-01-ja/index.html>

## 入院者数

### ○計画

- ▶ コロナ陽性者のうちで、入院加療が必要な大会関係者については、大会指定病院や保健部局の指定する医療機関などと調整を行い、適切な医療機関へ入院
- ▶ 療養施設との連携を図り、地域の影響を最小限にとどめるよう配慮

### ○実績 (速報値)



### ○総括

- ▶ 大会関係者の入院者数は低く抑えることができたが、期間後半では日本人スタッフの入院者数が増加する傾向がみられた。

## 陽性者対応 (宿泊療養施設の運営)

### ○計画

- 対象者  
選手等のうち、軽症又は無症状の者
- 運営期間  
7月13日～9月17日
- 運営  
療養施設の運営は東京都の運用基準に準拠
  - ▶ ゾーニングによる立入りエリアの厳格化
  - ▶ 原則10日間の療養期間
  - ▶ 医師又は看護師による健康確認の実施
  - ▶ 看護師及び事務職による24時間体制

### ○実績 (速報値)



### ○総括

- ▶ IOC/IPCからオリンピック20名、パラリンピック6名(重複含む)の医療スタッフの応援
- ▶ 運営開始予定日より前に陽性者の受入れを開始することとなったが、食事やリネンの準備など緊急購入により対応することで、適切に受け入れを実施
- ▶ パラリンピック期間は、急遽、介助が必要な陽性者の受入れを行うことが決定し、マンパワーの不足や必要な施設・設備の不足が課題となったが、適切に対応(詳細は後述)。